

# 自閉症児の模倣障害に関する検討

国際医療福祉大学 成田保健医療学部  
言語聴覚学科 岩崎 淳也

# 自閉症スペクトラム障害(ASD)の コミュニケーション面の特徴(DSM-5)

- ・ 社会的相互反応を開始したり応じたりすることの困難
- ・ 人間関係を発展させ、維持することの困難  
(友人を作ることの困難、他人への興味の欠如)



ASDのコミュニケーションを支援する際には、社会的相互反応の特異性の実態を明らかにすることが重要

# ASDにおける模倣の困難

- 模倣の機能：  
相手からの信頼や好意を得られる(カメレオン効果)  
→人間関係の維持・発展  
社会的規範の習得が可能
- ASDは目的のはっきりしない行為の模倣や  
明確な指示のない場面での自発的な模倣が困難  
⇒模倣の困難さと社会的相互反応の困難さとの  
関連が示唆

# ASD児の社会的相互反応の 特異性の検討

目的： ASD児とTD児で行為の目的とは  
関連のない模倣を行う傾向性に  
差が見られるか検討する

# 研究参加者

## ○ASD群

- ・ 6歳～9歳のASD児18名

## ○TD群

- ・ 年齢を合わせた定型発達児15名

表1 研究参加者の概要

	ASD(N=18)	TD(N=15)	P値
年齢	88.0 (80.0–107.0)	93.0 (83.0–103.0)	0.64
RCPM	27.5 (26.0–31.8)	29.0 (23.5–33.0)	0.99
PVT-R	11.0 (8.0–13.0)	13.0 (11.0–13.0)	0.12
PARS	20.0 (15.0–27.5)	4.0 (1.0–4.5)	<0.01

# 模倣課題

- ・パソコン画面上で、玩具を使った行為を提示
- ・各行為には、目的達成のために必要な2つの動作と2つの不必要な動作が含まれる

例：目的→果物(バナナ、リンゴ)を皿に乗せる

1(不必要)バナナを高く挙げる

2(必要)バナナを皿へ乗せる

3(不必要)リンゴを机の上で2回回す

4(必要)リンゴを皿へ乗せる

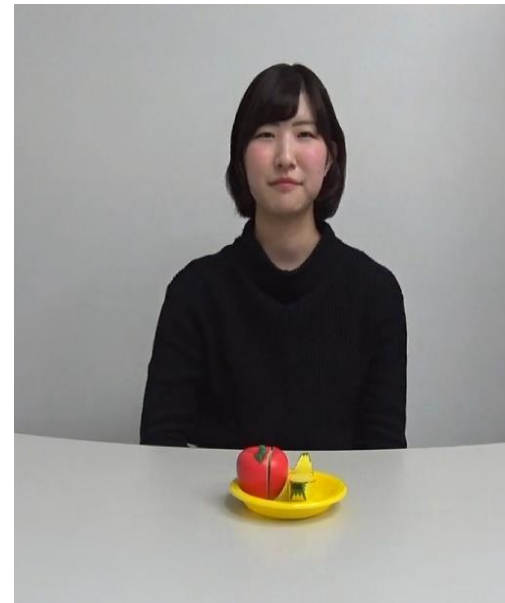
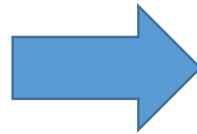
※必要な動作の模倣　：有関連模倣

不必要な動作の模倣　：無関連模倣

# 模倣課題



「これを…」



「こうしてもらいます」

あらかじめ動作の目的について明確に理解させる

# 模倣課題



「お姉さんを見てて」  
→ unnecessary actions included in 4 actions in video提示

「じゃあ、～さんの番」→明確な模倣の指示はなし  
→目的達成のためには unnecessary actions を自発的に模倣するか



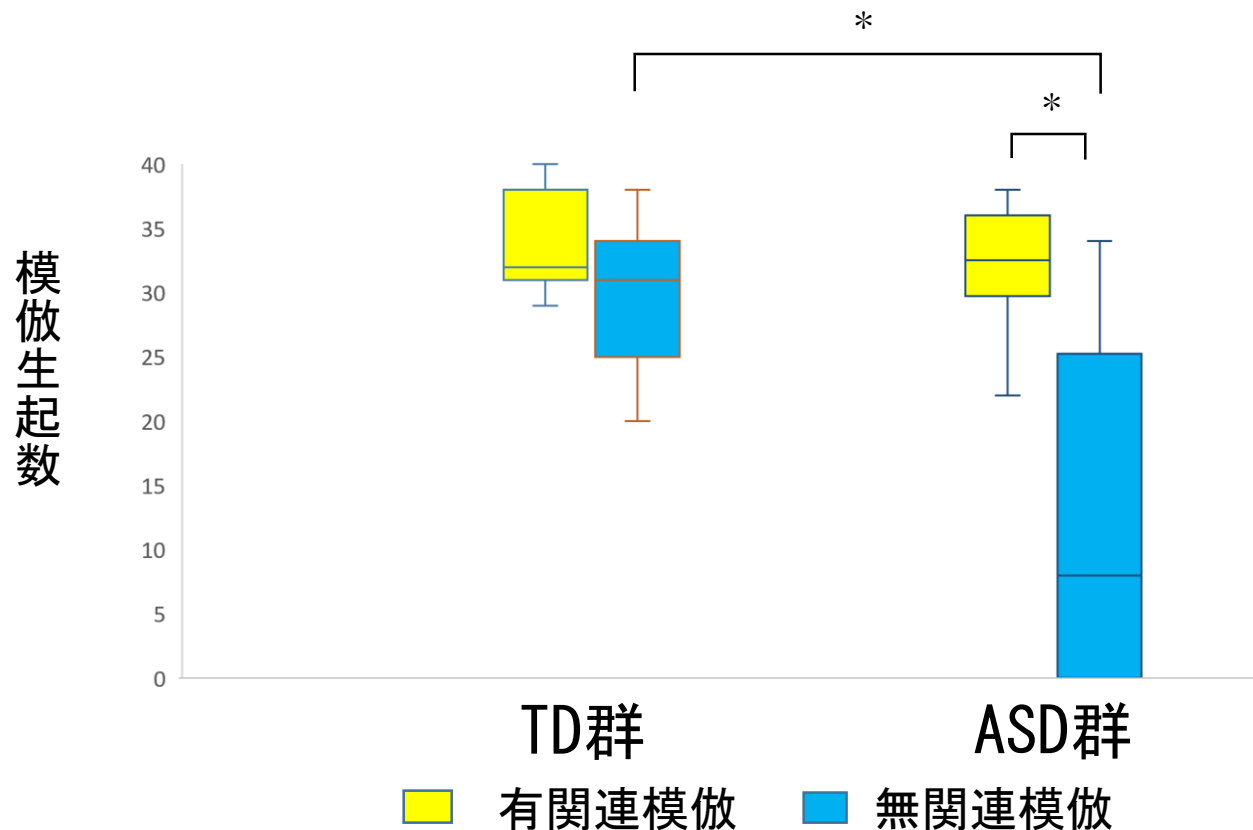
# 分析方法

1) TD群における有関連/無関連模倣生起数の差および ASD群における有関連/無関連模倣生起数の差を Wilcoxonの符号付順位和検定を用いて調べた

2) 有関連模倣課題のTD群とASD群の模倣生起数の差 および無関連模倣課題のTD群とASD群の差を Mann-WhitneyのU検定を用いて調べた

※Bonferroni法による補正を実施( $P < 0.05$ )

# 結果：模倣生起数の中央値(四分位範囲)



TD群：有関連模倣 = 無関連模倣  
ASD群：有関連模倣 > 無関連模倣  
有関連模倣：TD=ASD  
無関連模倣：TD>ASD

# 考察

- 有関連模倣条件では、両群に成績差なし  
→ASDは目的のはっきりした動作の模倣に困難はない
- TD群では有関連模倣と無関連模倣の成績差なし  
→TD群は目的達成のために不必要な動作を積極的に模倣する傾向がある
- ASD群では有関連模倣より無関連模倣が低下  
→ASD群では目的のはっきりしない動作を模倣する傾向が低い  
→周囲に合わせて反応を返す傾向性の低下

# まとめ

- ASDの社会的相互反応の特異性  
模倣能力自体に問題はないが、目的達成のために  
不必要な動作を模倣する傾向がTD児に比べて低い



人間関係の維持・発展  
社会的規範の習得などに影響を与える



社会的コミュニケーションの困難